

笛吹市探訪

武田氏と笛吹市⑩ — 信虎誕生屋敷(春日居町) —

大河ドラマ「風林火山」などの影響で武田信虎（のぶとら）には暴君のイメージがあります。しかし、信虎は乱れていた甲斐国を統一し、甲府につつじが崎の館と城下町を築きました。最近では戦国大名武田家の基礎を築いた武将として評価されています。



信虎誕生屋敷現状



信虎誕生屋敷地図

武田信虎は明応（めいおう）3年（1494年）に春日居町下岩下にある岩下氏館跡（信虎誕生屋敷）で生まれたという説があります。現在、信虎誕生屋敷と呼ばれる場所には周囲に水路を巡らせた方形の区画があり、屋敷跡北西部の石垣は周囲の道より約1m50cm程高くなっています。この部分に岩下越前守（いわしたえちぜんのかみ）の館があったと言われている。

ます。



漆碗出土の様子

信虎の母は岩下越前守の妹です。母が実家に里帰りしている時に生まれた男子が信虎だという説があり、「甲斐国志」には「里人武田信虎ノ誕生セシ処ト云ヒ伝フ」と記録されています。

信虎誕生屋敷北西部では平成13年に発掘調査が行われました。その結果、掘建柱（ほったてばしら）建物の柱穴が見つかり、ひとつの柱穴には柱の一部が残っていました。

また平成19年に行われた発掘調査では、館跡北東部の地表下80cmから、中世・近世に作られた碗（わん）が見つかりました。

碗には鮮やかな朱色の漆が塗られ、縁の直径は18cm以上、高さは7cm以上あります。漆が塗られている碗は中世・近世では高級品でした。

さらに、信虎誕生屋敷の東側には原田仁兵衛（じんべえ）屋敷跡



出土した朱色の漆碗

などもあります。原田仁兵衛屋敷の北側からは大正6年（1918年）に甲州金が3枚掘り出されました。大判金（おおばんきん）2枚と角判金（かくばんきん）1枚です。大判金は長さが約13・5cmで、重さは約160gです。角判金は長さが約10cm、重さは約156gです。大判金は、褒美として使われたと考えられています。現在は、3枚とも東京国立博物館で保管されています。

また、同じ様な金貨が長野県下諏訪町の諏訪大社下社秋宮の境内と甲州市勝沼町のブドウ園から見つかっています。

春日居町下岩下地区には、このような武田氏十八代武田信虎や戦国時代の豪族に関する史跡が残っています。